

＜ 学校教育目標 ＞

自ら学び

心豊かで

たくましい 稲田っ子

いなだっ子

笠間市立稲田小学校

学校だより NO.12

令和6年10月15日(火)

「時を守り 場を清め 礼を正す」

これは、哲学者の森信三氏の言葉です。この言葉は、教育現場はもとより、企業理念や社会人教育など多方面で活用されておりますので、耳にされていることと思います。我々自身が生活するうえで大切にしたい言葉だと思えます。また、教育の効果を高めるためにも必要なことだと考えています。

【時を守り】

これは「遅刻をしない、期日を守る」ということです。定刻までには準備を整え、きたるべき時に備えて心を静めて開始を待つということです。また、決められた期日までに求められた対応を行うということでもあります。時を守る先には、必ず相手があります。自らが時を守ることで、相手を尊重することとなります。それにより自分の信用を高めることに繋がります。

学校は多くの機関から文書での報告が求められます。「どうしてこんなにあるんだろう」と思う時もありました。でも、私が出さないと困る人がいるんですよね。その人は顔も知らない人ではありますが、確実にパソコンの向こう側にいます。その人を尊重し、できるだけ期限内に報告するよう努めました。

稲田小学校は、昨年度まで「ノーチャイム」で生活していましたが、今年度はチャイムを使用するようになり、今までの「1分前着席」から「チャイム着席」になりました。チャイムが鳴っている間には全員が着席し、心を落ち着けて次の授業に臨めるよう指導しています。

【場を清め】

これは「整理整頓をし、掃除をほどこす」ということです。掃除をすることは「5K」として語られることがあります。①気づく人になれる。②心を磨く ③謙虚になれる ④感動する心を育む ⑤感謝の心が芽生える。単に身の回りの整理整頓や掃除であっても、他を敬い、奉仕の心につながると考えます。

学校では、靴箱のかかと揃えに取り組んでいます。朝、係の子がチェックしていますが、いつも同じ人の靴を係の子が直してあげてしまっただけでは意味がありません。係の子が整えるのではなく、全員が整える意識をもって揃えられるようにすることが大事だと思います。

また、「黙働」にも取り組んでいます。上記の意味を子供たちに伝え、「黙って真剣に場を清める」という視点で指導しています。物が雑然としている環境下ではなく、きれいに整った環境で学習することも効果を上げるためには大切なことだと思います。教室内、机の中など、整理して学習や仕事に臨むことが大切です。私も「整理整頓」は得意ではないのですが、ミスをしないために心がけるようにしています。

【礼を正す】

これは「挨拶をする、返事をする」ということです。「挨拶」という言葉には「心を開いて、相手に迫る」という意味があります。「挨拶」をすることで人間関係は良好に保たれます。そしてその「挨拶」は率先して他人よりも先に行うことが求められます。相手に聞こえるような大きな声で、さらには相手が気持ちよく受け取ってくれる挨拶こそが、その相手に対する礼節につながります。また、呼ばれたら「はい」と答え、お世話になったのなら「ありがとうございます」と返事をすることもまた重要です。

稲田小の子供たちは挨拶がよくできます。これは私の率直な感想です。保護者の皆様や、地域の方々、さらには今までの先生方のご指導のたまものだと思います。ある意味「伝統」だと思います。私は毎朝、こども園前で立哨指導をしています。立哨をしていると笑顔で「おはようございます」と挨拶をしてくれる子がたくさんいます。また、自家用車で送ってこられた保護者の皆様も、車の中から会釈をしてくださいます。そうした場面は、すごく気持ちよくて「今日も頑張ろう」という気持ちにさせてくれます。

挨拶は「エールの交換」だと考え、相手より先に挨拶をすることを心がけています。そして、時には相手が答えてくれないときもありますが、それでも相手に元気をあげることができたと思うようにしています。

この3つの言葉に通じるものは、相手を思いやる・相手を敬う気持ちです。人は一人で生きていけません。誰もが誰かに支えられ 誰もが誰かを支えています。だからこそ、3つの言葉を「感謝」の気持ちをもって具現することが大切となります。「い」「な」「だ」の合い言葉「いつも明るいあいさつ・何事にも全力で・誰にも優しい」もこの3つの言葉と通じる思いが込められていると思います。これからは、互いに認め合い 敬い合い、相手を大切にすることを育んでまいりましょう。

また、「凡事徹底」という言葉もあります。誰にでもできる平凡なことを、誰にもできないくらい徹底して続けることから、偉大なことや、非凡なことは生まれるものです。小さな差の積み重ねが、それも何でもないことの積み重ねがやがて大きな差になります。私達がかかわった子供たちは、当たり前のことを、丁寧に粛々と続けていき、キラキラと輝いていってほしいと願っています。

今日から令和6年度の後期が始まりました。後期も子供たちのために職員一丸となって取り組んでまいります。引き続きご理解、ご協力をお願いいたします。

稲田小学校長 高野 裕一